



平成25年8月8日 文責 高尾久美子

教育センターだより

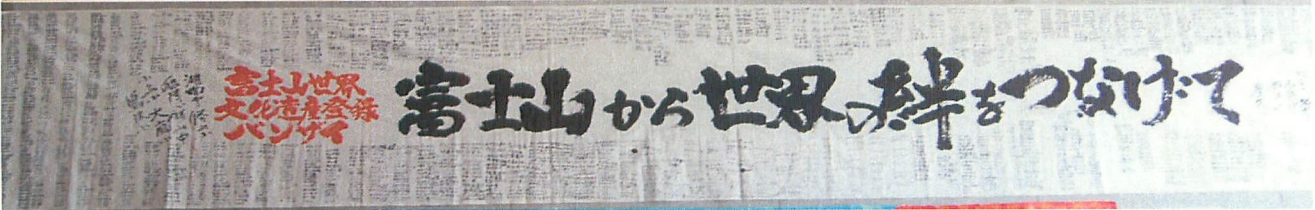
わたしたちの富士山

～富士山という山を学ぼう～

7月26日（金）富士吉田市民会館で子どもたちを対象に、秋田大学の林信太郎教授による「富士山という山を学ぼう」の授業（教育センター共催）を開催しました。林先生は、キッチンが大好きです。この日は、ココアやソース、コンデンスミルクを使って溶岩の流れ方やコーラを使って富士山の爆発を見せたり、入浴剤を使って富士山の噴煙を、麩を使って火山灰の行方を再現したりしました。実際に、子どもたちは手にとって溶岩の流れ方を体験し、楽しみながら学習していました。（右写真）



左の写真は、富士山の模型を使って、爆発した場所からの溶岩の流れ方を再現したものです。場所によって流れ方が違います。ですから、どの方向に逃げればいいのか分かります。富士山という山を学ぶことによって、火山の危険性と恵を考えることができました。



7月29日（月）・30日（火）、町主催の富士登山が行われ、町内小中学校の児童・生徒28名が参加しました。町長さんの願いを受けて、湖畔の児生連の取り組みで、町長さんに「富士山から世界に絆をつなげて」と筆で書いていただいた横断幕に、町の児童・生徒約2,800名が自分の名前を書きました。それを頂上で掲げました。登山した子どもたちが、登山できなかった仲間の思いを一緒に届けることができました。子どもたちにとって一生の思い出ができたことと思います。また、富士山への思いがいつそう深まったことでしょう。

教育センターで行った「富士山学習に関するアンケート」から「富士山を学習することで、富士山を汚さないようにしようという意識が高まる。」「富士山を守ろうという気持ちが強くなる。富士山を誇りに思えるようになる。」という回答が多くありました。富士山が世界文化遺産になったことで、私たちの富士山への思い、富士山を守ろうという思いは確かに深まっています。この思いを繋げていくことを大切にしていきたいと思っています。